

第 1 回中間報告（留学開始時）



←Rotary International District 1080
奨学生ウェルカムパーティーにて
Tony Platt 氏と（2017/10/11）



→同パーティーにて
地区の奨学生と

1. 報告書提出日

2017 年 10 月 23 日（月）—留学開始報告

報告期間：

2017 年 8 月 19 日～2017 年 10 月 22 日（英語準備コース～修士課程開始時）

2. 基本情報

氏名：河崎涼花

派遣ホストクラブ：三原ロータリークラブ

カウンセラー：橘 伸和 氏

受入ホストクラブ：Rotary Club of Norwich

カウンセラー：Janey Bevington

教育機関・専攻分野：

イーストアングリア大学 国際開発学部

教育開発修士課程

MA Education and Development

School of International Development, University of East Anglia



【留学先紹介】

古き良き中世の面影が残る街、ノリッチ (Norwich)



ノリッチ (Norwich : 「北の街」の意) はイングランド東部のノーフォーク (Norfolk) 州の首都です。かつて製造業が盛んで、実は世界でも有名な「コールマンのマスタード」の発祥の地でもあります。のどかで美しく、大聖堂や城跡、美術館や博物館が並び、その歴史を感じさせる街ですが、一方でレストランやパブ、新しいショッピングセンターやモールの建設も

進んでいる都市です。ノリッチ大聖堂 (Norwich Cathedral) は 1480 年に建設され、その尖塔は、イギリス第 2 位の高さを誇っています。私もまだ、外から眺めたことがあるだけで聖堂内には足を踏み入れていないので、近々訪れようと思っています！

大学からは、バスで、15 分ほどで、街の中心地に行くことができます。早朝から深夜遅くまで運行するバスは学生の味方です！中心地までの道のり、そして街の中には、たくさんの小さな商店とチャリティショップが並んでいます。また、充実したマーケット・プレイスには、アジア各国の食材を揃えたお店があり、日本食や調味料を購入することができます！

気候は、年間平均気温が 10.2℃と、極端な暑さ・寒さには襲われないようです。一年間を通して雨量が多い地域ですが、雪はさほど降らないとか...

自然豊かで広大な敷地を持つイーストアングリア大学

卒業生であるカズオ・イングロ氏のノーベル文学賞受賞により、今後注目度上がること間違いなしのイーストアングリア大学です！このタイミングで留学できていることを非常に光栄に思っています。1961 年から大学の建設が開始されたようですが、もともとはノリッチ郊外のゴルフコースだったようです。そのせいもあって、大学構内には美しい湖があります。大学内には、24 時間利用可能な図書館を始めとする、充実した学習スペースはもちろんのこと、生協スーパー、カフェ、バー、ジム、競技場、本屋、銀行、ランドリー、病院などの施設が揃っています。基本的に大学内で生活できます！ただ、360 エーカーの広大なキャンパスであるが故に、大学内の寮から講義棟までは...結構な距離なので、朝は、のんびりしてられません！(笑)



学士・修士・博士の学生が集い、国籍も様々です。私の所属する国際開発学部の修士課程も特に、世界各国から学生・実務経験者が集っており、年齢層も多様な集団となっています。国際開発学部の修士課程はそこからまた 14 の専攻に分かれています。いくつかの科目は専攻を越えて選択できるので、授業では、多様な興味関心・バックグラウンドを持つ学生が混在し、議論し合っています。

私の専攻である、教育開発学コースには 16 名の学生が在籍しています。彼らのバックグラウンドは、NGO 勤務経験者、教師・看護師・ボランティア経験者、政府機関出身者などです。まだ始まったばかりですが、毎日刺激的な日々を送っています！

【INTO UEA での英語準備コースの振り返り】

世界各地の大学キャンパス内で進学準備校を運営する「INTO」は、イーストアングリア大学（UEA）にも校舎を構えています（イーストアングリ 3 ア大学 INTO センター）。多数コースを設けていますが、私は、その中でも、修士課程進学のための英語コース「INTO Pre-sessional English（大学院進学準備英語コース）」の学生として、現在の修士課程が始まる前の 4 週間、英語プログラムの参加していました。海外の大学で学んでいくための英語力とアカデミックスキルを身につけるためのコースで、主に Writing と Listening に重点を置いた授業が開講されました。10 冊以上の参考文献をもとに、1500word のエッセイを執筆し、そのエッセイに関する 10 分間のプレゼンテーションというのが、コースの最終課題でした。あらゆる分野の修士課程を控える学生が集い、本コース前に、刺激的なウォーミングアップとなりました。慣れない・知らない土地での修士号取得には、やはり不安や懸念がありました（今もありますが）、この最初の 4 週間のおかげで、そして、このコースで出逢った仲間たちのおかげで、やや軽減された気がします！教授からのフィードバックやアドバイスは、自信にもなり、成長へのモチベーションとなっています。



←4 週間のコース修了後の集合写真。修了証書とともに。
(2017/9/15)



→それぞれ修士課程が始まった今でも、よく集まります。

3. 学業面での成果（専攻する課程に関して）

イーストアングリア大学の修士課程は二学期のセメスター制で、9 月下旬～12 月中旬の秋学期と、クリスマス休暇をとった後の、1 月中旬から 5 月中旬まで（うち 1 カ月はイースター休暇）の春学期で構成されています。5 月中旬から 6 月中旬は、試験週間です...！そして試験終了後から修士論文の執筆に専念し、8 月末の提出締め切り日を迎えます。

在籍する国際開発学部には 13 の修士課程コースがあり、約 100 名の学生が世界中から集結しています。私はその中の「教育開発 (Education and Development)」を専攻しています。コースメイトは 16 人ですが、教育開発コースの科目を、選択科目として受講している学生もいるので、授業自体は 30 人ほどの規模で進んでいます。各セメスターで、必須科目

↓教育開発課程のコースメイトと。



を1つ、選択科目を2つ、受講します。各科目は、レクチャー（いわゆる講義形式のもの）、セミナー（演習・ゼミ形式、ディスカッション、ディベートなど含む）、ワークショップ（実践演習）の3つのタイプの授業スタイルで構成されており、それぞれ2〜3時間です。日によって偏りはあるものの、週に2〜3日は、同じ科目の教授に会うということです。さらに、科目によっては、教授にお願いして、レクチャーのみは聴講させてもらうことも可能なので、私も複数個、興味があるトピックを扱う際には、正規科目以外にも潜り込んでいます。

私は今学期、「教育開発概論」（必須科目）に加えて、「研究手法と分析」と「開発におけるインパクト評価」を選択科目として受講しています。ちょうど折り返し地点が見えてきたころですが、日々の予習の重要性を痛感し、そして、授業でいかに頭に落とし込むかを模索し、さらに授業後は、復習によって、どれほど知識を深め、自分のものできるか、という必死の学習サイクルを実践しています。科目ごとに、授業前に提示された参考文献を読解しますが、その量は膨大なため、タイムマネジメント力が鍛えられるとともに、他の学生とのリーディンググループを結成するなどの戦略的学習力も身につけている気がしています。また、グループプレゼンテーションやディベート、ロールプレイングなど、日本ではあまり馴染みのない学習・発表形態を経験することができて、新鮮味も感じられます。しかし何といても、周りの英語レベルや理解力、学習意欲が非常に高いので、圧倒されますが、ただ圧倒されているだけでは意味がないので、積極性はこれからも磨いていかなければならないと思う毎日です。

課外活動としては、学内の Society（サークル）への加入を考えています。社会性やチャリティの側面からのアプローチとして Oxfam Society、組織力や運営マネジメント力の育成のために TEDx Society を検討しています。また、イギリス・ノリッチはチャリティやボランティア活動も盛んで、大学でボランティアフェアが開かれ、ボランティア学生を募っているほどです。その中で、興味のある分野の NGO などのボランティアへの参加も考えており、学外にもアンテナを広げていきたいと思っています。もちろん授業が最優先で、それだけでも精一杯な状況と言えますが、1年間の英国生活の中で、できる限りのことをして、ここでしかできないたくさんの経験を持って帰りたいと思っています。



↑ シティーセンターの様子

↓ 学内には湖も...!



4. 受入ロータリークラブ (Rotary Club of Norwich) との関わり

【これまでの関わり】

2017年8月29日 カウンセラーの Janey Bevington さんとお会いしました。

2017年9月21日 受入クラブの例会に参加させていただきました。

バナーの交換、お土産の贈呈をいたしました。

2017年10月7日 特にお誘いを受けたわけではありませんが、ノリッチのロータリークラブと、ノリッチの国連関係団体が共催の、トークセッションを聴講しに行きました。

2017年10月11日 受入地区(1080地区)の奨学生歓迎パーティー(ケンブリッジにて)に参加させていただきました。1080地区には今年度11名の奨学生が集っています。出逢った奨学生にバッチ(ピン)を渡しました。また10分弱ほどの自己紹介をいたしました。

カウンセラーの Janey は、気さくで親切な方です。これまでホームステイなどのホストのご経験も豊富のようで、とても心強く、色々と学校のことや、私生活のことを相談できる方です。また、受け入れクラブの皆さんにも、とても暖かく歓迎していただき、すぐに馴染むことができました。パーティーでも自己紹介の機会を頂くなど、社交性や発信力、そして **Public Speaking** の力を養う貴重な機会となりました。また、パーティーでの出逢いから、奨学生のネットワークもでき、分野は違うけれど、今後互いに目標に向けて勉学に励む同士として、おそらく生涯続いていく素敵な出逢いに恵まれています。



←↓受入クラブの例会にて。
バナー交換とお土産贈呈。
クラブ会長の Kevin Reynolds 氏と。
(2017/9/21)



→地区パーティーにて
自己紹介時の様子



←地区パーティーにて
1080地区ガバナーの
Rovert Lovick 氏と

【今後の関わり】

2017年10月29日 クラブ・地区主催のイベントではありませんが、奨学生歓迎パーティーで顔を合わせた奨学生と時間を合わせて再集結します！奨学生のための集まりです！

2017年11月5日 受入クラブ主催のコンサートに参加させていただきます。

2017年12月7日 受入クラブの例会兼クリスマスパーティに参加予定です。

※おそらくこのほかにもクラブに関わる機会が入ってくると思いますが、カウンセラーの方もご家庭の事情などにより、ご多忙のようで、例会への参加も不定期とのこと。

5. 直面した課題

安全面・衛生面などでは問題ありません。学内の寮なので、セキュリティやサポートもしっかりしています。共用バス・トイレ・キッチンの経験は初めてですが、今のところ、大きな問題なく過ごすことができています。また、大学構内に生協ショップや郵便局もあり、基本的な買い物などで不便な思いはしませんが、食材以外の生活用品の買い足しには、シティーセンターまで出る必要があります。（大学の付近には近距離にお店がありません...）強いて言うと、その 15 分ほどのシティーまでのバス運賃が往復で 700 円ほどするのは、やや負担です...。また、洗濯代も出費がかさみます。学内にランドリーがあるのですが、一度の洗濯で約 400 円（乾燥機能も含めると約 800 円弱）かかるので、渋ってしまいます。なるべく回数を減らすために手洗いできるものは手洗いして、乾燥機能は使わず、部屋干し（部屋が洗濯物だらけになる...）をするよう心掛けてはいます。

あとはやはり英語力がまだまだ充分とは言えないので、日々奮闘しています。特にディスカッションやディベートの時間は、他の自熟学生に対して、いかに切り込んでいくか、力量が問われるところです...！初回のディスカッションで感じた悔しさをばねに、負けず嫌いの精神で、盛り返していきます！！

6. 今後の課題・目標

まずは、目の前の課題や授業へ全力で体当たりします。課題もありますが、やはり、自分が求めている勉強が、希望通りの場所でできることに、とてもワクワクしているので、この初心を忘れず、今後も刺激的な仲間や教授と共に勉学に励んでまいります。学外の活動も視野に入れながら、そして今後のキャリアに関してもキャリアセンターなどを大いに活用しながら、英国での 1 年間という限られた時間の意義を最大限に見出して生活していきます。

今後ともよろしく願いいたします。

河崎 涼花



先日、念願の、
フィッシュアンドチップスに
初挑戦しました！
最強の攻略方法は…
一日一食です。